日本の母を讃える講演と歌の集い

母親は子供の最高の教師

中野サンプラザ

5月11日、東京都中野区の中野サンプラザで第3回「日本の母を讃える講演と歌の集い」が日本の母を讃える会（内野経一郎主宰）主催で開催された。

講演する王明理・台湾独立建国連盟委員長＝5月11日、東京都中野区の会場

内野大三郎中野区会議員の司会進行で始まり、内野経一郎氏が開会の挨拶、「先の大戦で一人の特攻隊員が出陣前に会えない母を思い、『お母さん』と大きな声を出したら、母親に抱かれながら突っ込むのだと思い、命を失うことが怖くなくなったそうだ。母を思うのは良いことだと思い、今日まで続けてきた」と母の大切さを強調した。そして矢筈野武久氏による詩吟「母を憶う」「母を奉じて嵐山に遊ぶ」の後、母の歌、童謡「おかあさん」小学唱歌「母の歌」が斉唱された。

ジャーナリストの葛城奈海氏が「英霊の言乃葉」にみる母」と題して、靖国神社の社頭に掲げられている英霊の遺書をいくつか朗読し、最後に朗読した英霊の妻とこれから生まれる幼子に残してもらえたら最高に幸せだ」との感想を述べ、また「世界に平和が訪れて、万民太平の幸を受けるまで懸命の勉強をすることが大切だ」と言い残し、大義のため出撃した

ことに感銘したと語った。

作家の門田隆将氏によるビデオメッセージ「山下奉文と我が母」が紹介され、「マレーの虎と言われた山下将軍は戦後、戦犯とされ、フィリピンのマニラで死刑を執行される際、日本に残す言葉を聞かれ、婦人の家庭における教育だと語った。幼児教育の最も適当な場は家庭であり、教師は母である。母親は物心両面における愛情を惜しみなく子供にあげなければならない。これが、彼が祖国に望んだことだった」と話し、それが同郷の自身の母親に影響を与えたと回想した。

王明理・台湾独立建国連盟委員長が「緑綬褒章と親孝行」と題し講演。

「戦前の日本には親孝行を表彰する、明治14年に制定された緑綬褒章があった。以前は『孝子・順孫・節婦・義僕の徳行卓絶なる者又は実業に精励し衆民の模範たるべき者』に授与するものとされ、これを台湾の台南市に住んでいた私の曾祖母が日本政府から受け、当時は市の名誉だと言われた。曾祖母は25歳の時に夫に先立たれ、その後夫の連れ子だった私の祖父を育てた。祖父は丁稚奉公から始め一代で財を築き、ホームレスの収容施設を作るなど、社会福祉に力を尽くした。その功績が認められて皇紀2600年、皇居での式典にも招かれた。この勲章は『よくもこんな立派な子を育てましたね』というもので、粋な勲章だと思う」と、曾祖母が勲章を受けた経緯と愛国者である家族、そして台湾の重要性を熱心に語った。

続いて元外交官の馬渕睦夫氏が「母性が世界を救う」と題し講演。「人間としての原点が母親であり、母性は人類共通のものだ。天皇陛下の私たちに対する『慈しみ』も母性であり、一方的に与え、見返りを求めない。日本の女性は社会で、家庭ですでに輝いていた。女性が輝くのは仕事だけではない」と、母性について考えを述べた

最後に母を讃える歌の斉唱となり、童謡「おかあさん」、童謡「かあさんの歌」、さだまさしのヒット曲「無縁坂」を全員で歌った。

大川隆法総裁講演会

「自由・民主・信仰の世界」

千葉・幕張メッセ

5月14日、千葉県千葉市の幕張メッセで幸福実現党立党10周年を記念し、創立者である大川隆法・幸福の科学総裁の講演会が開催された。第1部では「自由・民主・信仰の世界」と題して大川総裁による法話が行われ、第2部では幸福実現党党首の釈量子氏が挨拶した。

講演する大川隆法総裁＝5月14日、千葉県千葉市の幕張メッセ

幸福実現党の主な政策は、憲法9条改正、宗教教育や徳育を取り入れた教育改革、民間による社会保障の活性化、消費税減税、富の総量の増大、日本がリーダーシップをとった世界平和の実現など。大川総裁は講演の中で次のように語った。

幸福実現党はまだ幸福の科学が作った政党としての役目は十分に果たしてはいないが、オピニオン政党としてこの国を引っ張ってきた。日本は世界に評価されている良い国だから責任がある。自由には「国家からの自由」と「国家への自由」があり、日本には国家からの自由があるが、他の国では国家からの自由がなく苦しんでいる。ウイグル自治区とチベット自治区は国を奪われて奴隷のようになり、香港でも弾圧が起こっている。「自由・民主・信仰」の立場から見ると、台湾との国交がないのは不当だ。日本には自由民主党、立憲民主党、国民民主党という政党が「民主」という言葉を使い、民主主義は宗教に対しては厳しい。なぜならそれぞれの意見の統合によって物事を決めるので、新しい宗教は少数だからだ。それでも幸福実現党は民主主義を推進している。トランプ大統領は、自分を批判する人がいることは良いことで、それが民主主義だと語った。アメリカではトランプ大統領の経済政策が効いて、49年ぶりの低失業率となっている。日本も国内で自分の賃金を生み出すような政策をすべきだ。

民主主義はともすると唯物論に走りがちだが、唯神論に走るほうがよく、宗教を信じたほうが人は堕落しない。共産主義も民主主義を標榜していたが、暴力革命を起こし、この世的な合理性で官僚制になり、独裁になっている。それは進歩ではなく、制度としては退化している。

正しいことを言える政党を作らないといけない。今は幸福実現党のような正論が言えない。民主主義の国である日本は信仰を中心とした国にならないといけない。

党首の釈量子氏が挨拶した後、松島弘典選対委員長の音頭で関（とき）の声をあげ、閉会した

大川総裁と釈党首が記念対談

徳のある民主主義を

東京・高田馬場

5月22日には大川総裁と釈党首による幸福実現党立党10周年記念対談がベルサール高田馬場で行われた。

大川隆法総裁と釈量子党首＝5月22日、東京都新宿区のベルサール高田馬場

釈党首の「世界の貧困問題をどう解決すればいいのか」という質問に対して、大川総裁は「貧困国には日本昔話を翻訳して伝える必要がある」と述べ、日本昔話は勧善懲悪の因果関係を教えているので、「神仏を信じて努力している人には良いことがあり、盗みやひったくりをしているようでは滅びに至ることが理解できる」と語った。そして「工場を作っても、機械や商品を盗んだりしているようでは、経済を大きくする循環が始まらない」と物資的な援助だけでは不足なことを強調した。

民主主義について大川総裁は「今、ソクラテスと上野動物園のパンダのシャンシャンが立候補したら、シャンシャンが勝つかもしれない。本当の意味で賢い人を選ぶ努力をしていない」と話し、釈党首は「日本でも徳ある人が選ばれる民主主義を目指したい。その基盤は、一人一人が神の子であり、仏の子であるという前提がある」と述べた。

白光真宏会「世界平和交響曲」

祈りで世界を平和に

静岡県富士宮市

静岡県富士宮市の白光真宏会（西園寺昌美会長）の富士聖地で5月19日、第15回世界平和交響曲（Symphony of Peace Prayers SOPP）が開催された。世界平和交響曲は「平和に向けた意識改革」の活動として平成17年（2005）から毎年5月に開催され、異なる宗教や背景の人々が、それぞれの多様性を称え、共に世界の平和と調和を祈る。富士聖地での開催日に合わせて世界各地で「平和の祈りの集い」が開かれ、またインターネットでも生中継される。10時15分に開会、西園寺昌美会長が挨拶の言葉を述べた。「私は皆様と共に各宗教の祈りを共に捧げ、世界各国の幸せを共に祈れることを大変誇りに思っている。世界のすべての人々の命が自由、平等であり、神聖にして光り輝くものだ。今自分が地球存続のために、世界平和のために何をすべきかと強い信念を持っている人々が世界各地から来ている。高い意識と崇高にして神聖なる皆様と共にSOPPが開催できることは至福で、幸せに思う」

世界各国語による世界各国の平和の祈り＝5月19日、静岡県富士宮市の白光真宏会富士聖地

「神聖清浄活目覚めの印」が白光真宏会の会員により披露された後、各宗教・宗派の祈りが行われた。キリスト教を代表してカトリックのロッコ・ヴィヴィアーノ神父、ユダヤ教のマーク・N・ザイオン氏、イスラム教のイマーム、ムハンメット・ラーシット・アラスト師、神道の土橋政彦宮司（上井出曽我八幡宮、天神社、人穴浅間神社）、仏教の北川宥智住職（臥龍山修学院高家寺）、ヒンズー教のシャンティスリ・ゴスワミ氏、白光真宏会の西園寺昌美会長が各宗教の祈りを捧げ、参加者全員が共に祈りを捧げた。最後にすべての祈りのエネルギーを世界に広めるために瞑想の時間が持たれた。

来賓紹介、宮下節雄氏による演奏の後、富士宣言の発起人の一人である西園寺裕夫氏が講話をし、「宗教、教育、政治などで富士宣言に基づく社会変化を目指し、世界を調和したものに変えていくという目的がある。この4年間であらゆる場面で富士宣言が紹介された。富士宣言が多くの方に受け止められ、ネットワークができ、アフリカ連合でも富士宣言が発表された。また富士宣言を一人一人の生き方に表していくためにウェッブサイトを通して草の根的な善なる行動をしていく試みもこれからスタートする」と富士宣言の重要性を強調した。

富士宣言は平成27年（2015）にアーヴィン・ラズロ博士、西園寺裕夫氏、西園寺昌美氏が共同発起人になり、30の名の発足賛同者と50のパートナー団体の参加のもとに発表された。人類が本来の神聖なる精神に目覚め、すべてが一つに繋がっているという認識で生き、より平和で調和した豊かな文明を築くよう促す地球憲章である。

3人の来賓の挨拶、西園寺会長の感謝の言葉の後、世界各国の国旗が入場し、富士聖地全体から割れんばかりの拍手で迎えられた。副会長の西園寺里香氏が祈りの意義を説明し、世界の国々の国旗一つ一つがステージの真ん中に掲げられると、世界の各国語による世界各国の平和の祈りが参加者全員で行われた。

「地球生命への感謝」を参加者全員で唱和し、西園寺由佳会長代理が閉会の挨拶をした。「世界の平和のために祈る人々を繋いでいく。いまこそ一人一人が主人公となり、自らの神聖を発揮するSOPPとなり、より開けたSOPPを皆様と共に築いていきたい」

洗足池八幡宮で放生会

東京・大田区

東京都大田区千束八幡神社（惠良彰紀宮司）で5月26日、洗足池弁財天として親しまれている攝社、厳島神社の例祭にあわせ、恒例の放生会が第50回を記念して、氏子崇敬者約八百人参加のもと賑々しく斎行された。

当日は好天に恵まれ、まず祭典を斎行、続いて司会者より、放生会の意義について説明があり、メジロやシジュウカラ等の野鳥が宮司の手によって池畔の森に放たれると、参列者から大きな拍手が沸き起こった。

続いて氏子総代、崇敬者等が洗足池に錦鯉300匹を放流した。直会では女子青壮年による民族舞踊、青少年によるブラスバンド演奏、獅子舞等の奉納があり、洗足池周辺は終日賑わいを見せていた。

鎌倉顕証寺で第4回佛立大学講座

「仏教と水」の講演と法話

5月26日、神奈川県鎌倉市の本門佛立宗鎌倉山顕証寺（信清宏章住職）で、第4回佛立大学講座が開催された。最初に信清宏章住職が挨拶し「寺は生きた人に仏様の生きた教えを伝える場所だという思いから、平成26年に佛立講座を始め、仏教とは何かを学ぶ講座として毎回各分野のエキスパートを招いている」と述べた。

講演する杉田秀雄氏＝5月26日、神奈川県鎌倉市の鎌倉顕証寺

続いて、内外で水の専門家として活躍している東京大学元講師の杉田秀雄氏が「水の話」（水、環境問題、水再生）と題し講話した。

「水は全ての生命体にとって不可欠な物質で、人体の質量の60～70％を占める。人類の水使用量の70～80％は農業用水。日本では飲める水でトイレを流しているが、海外ではありえないこと。地球に水があるのは水素と酸素の原子が十分にあり、太陽と距離が適切で、大気に0・03％の炭酸ガスがあるからだ。うち淡水は2・53％で、利用可能な河川水などは0・01％にすぎない。

最近は異常気象が頻繁に起き、温暖化でレイク・ルイーズの万年氷河が後退し、海面上昇による沈没、干ばつ、砂漠化が日本でも発生している。科学技術の急速な発展と人口急増、化石燃料の消費増、二酸化炭素濃度の上昇が原因だ。1980年代から気温が急上昇し、水問題が深刻だ。水は貴重な資源で、大事に使わないといけない。水に困っている国は多く、20世は石油の世紀、21世紀は水の世紀と言われる」

次に福岡日雙師による「仏教と水」を題材にした法話があった。

「仏教は因縁果を教えるもので、それが釈迦の教え、佛立宗の教えでもある。いくら種（因）が良くてもいい土壌（縁）がなければ、育たない（果）。日蓮聖人は三力和合を説く。お題目というマントラを唱えることによって、仏力、経力、信力が一つになる。ユングのシンクロニシティ論は縁のことで、人間には宇宙全体の情報が備わり、すべての事象は互いに関連し、偶然で起こることは何一つない。日蓮聖人は声が何も関係なかったものを繋げると説いている。雪の結晶は六角形だが、水に声をかけてどう変化するかを研究した。「有り難う」という感謝の言葉を投げかけたらきれいな結晶を作り、罵倒したら、結晶がぐちゃぐちゃになった。水道水を仏前にお供えしてお題目を唱えたら、水質の高いきれいな水になる。水は心を含めた人間に反応している。それが一念三千論だ。

心の中に地獄と浄土の世界がある。世間も心が救うもので、日蓮聖人は立正安国で、心が世界をつくる、だから世の中をつくっていこうと説いている」

その後、霊廟でカズBAND のライブが行われ、歓談の時を過ごした。

さらば愛しきアウトロー

ロバート・レッドフォードの引退作

SCREEN スクリーン

ロバート・レッドフォードが俳優を引退する。記憶に残るのは名作『明日に向って撃て！』と『スティング』、『華麗なるギャツビー』や『大統領の陰謀』も忘れられない。

1970年代に、ハリウッド屈指の美男俳優として数多くの映画に出演し、80年には自身が監督した映画『普通の人々』でアカデミー監督賞を受賞、作品もアカデミー作品賞を受賞し、ハリウッドで初めて「演技と製作の双方で地位を確立した映画人」といわれた。81年には若手映画人の育成を目的としてサンダンス・インスティテュートを設立し、優秀なインディペンデント映画と製作者を世に送り出すサンダンス映画祭を開催している。

最後の主演作でロバートが演じるのは、90回以上の銀行強盗と16回の脱獄を繰り返しながら誰一人傷つけなかった〝伝説のアウトロー〟フォレスト・タッカー。強盗といいながらも、発砲もしなければ暴力も振るわないという紳士的で風変わりな犯行スタイルを貫く。強盗を続けるのは「楽しいから」。

ハリウッドの伝説ロバート・レッドフォード（Photo by Eric Zachanowich. ⓒ 2018 Twentieth Century Fox Film Corporation All Rights Reserved）

出会った魅力的な年配女性と恋に落ち、逃走劇を展開する。追うのは若き刑事のジョン・ハート。ほぼ実話だという。監督は「AGHOSTSTORY」のデビッド・ロウリー。

時は1980年代初頭のアメリカ。ポケットに入れた拳銃をチラリと見せるだけで、微笑みながら目的を遂げる74歳の銀行強盗がいた。被害者のはずの銀行の窓口係や支店長は彼のこと「紳士だった」と口々に誉めそやす。事件を担当することになったジョン刑事も、追いかければ追いかけるほどフォレストの生き方に魅了されていく。彼が堅気ではないと感じながらも、心を奪われてしまった恋人もいた。そんな中、フォレストは仲間とかつてない〝デカいヤマ〟を計画し、まんまと成功させる。だが、〝黄昏ギャング〟と大々的に報道されたために、予想もしなかった危機にさらされ…。

実在のアウトローをロバートが楽しく演じ、映画界の未来を託したい監督と豪華出演者がそろい踏みしている。世紀をまたいで燦然と輝く唯一無二のキャリアの集大成となる作品である。配給はロングライド。

7月12日（金）、TOHOシネマズシャンテほか全国ロードショー。